

# 荒川(下流域)流域治水協議会

【第1回 令和4年8月の大雨を踏まえた今後の対策検討】

## 議事概要

日時: 令和4年10月3日(月) 14:00~15:45

会場: 羽越河川国道事務所 大石ダム会議所 会議室

### 議事(1)

令和4年8月からの大雨による被災状況

#### 【主な質問・意見】

(村上市長)

今回の総雨量に対し、現状の河川・ダム・ため池・田んぼダム等でどこまで対応でき、浸水深を下げるためには、内外水をどこかに逃がすなど、どういう形でどれだけの量を受け止める等の議論が必要。ため池、田んぼダム等を用意していこうといった考え方も必要になると思う。

(関川村長)

今回の大雨でダムによって貯留量の少ないダムもあれば緊急放流(三面ダム)したダムもある。大石ダムの貯水率を考慮すると、もっと貯留できたのではないか。

(事務局)

操作規則では、大石ダムは洪水量を200m<sup>3</sup>/sと定め、それ以上の流量をダムで貯留することとなっている。今回の大雨では一時的に放流量が流入量を上回っているが、前線性の雨や線状降水帯の雨は予測が難しく、次の雨に備えてダムの余力を残し、降り始めた時に貯留する事がダムの基本である。なお今回、流入量が200m<sup>3</sup>/s以下の場合でも放流量を抑えており、操作規則以上にダムで貯留しているということになる。

### 議事(2)

今後の対策について

#### 【主な質問・意見】

(村上市長)

「流域治水型災害復旧制度の創設」の新たな制度拡充について、災害復旧は基本的に現状復旧であったが、同種の災害が発生したときに、現況復旧だけでなく機能アップも含

めた対策は可能か。

復旧と同時に新しい計画の策定も同時にセットで本制度を実施すれば、将来のリスクを回避できると考える。

(事務局)

被災を受けたときに、例えば堤防をもとに戻すだけでなく、流域全体としてより効果的な別の計画があれば、その計画を災害復旧事業で行うことが可能である。

河川整備計画等に対策が記載されていること、浸水を許容する区域を浸水被害防止区域等に指定することが条件となる。

### 議事(3)

#### 意見交換

(胎内市長)

乙大日川について、有事に対応できる環境にあったのか問い直されたと思う。河川周辺の環境、河床掘削、伐木を平時から対応しておくべきであると考えている。

羽越水害と比較して良かった点は人的被害がなかったこと。これが対策の根幹。災害の危険性が高い地域の居住を避けるため、情報提供や移住促進などソフト対策で対応できるのではないか。命を守るために有効・有益ではないかと感じている。

静岡県初め、全国的に災害により水で困っている状況であるが、胎内市は上水道の取水を荒川水系の長政用水路から行っており、荒川の早期復旧により、今回、少なくとも水で困ることが無かった。改めて関係機関の方々に感謝申し上げたい。

(村上市長)

関係機関の方々の多くの力を結集して頂き、当面の生活基盤が確保できたこと、感謝を申し上げたい。これから本格化していく災害復旧の対応について、災害リスクをはじめ、今後の災害に対して、より強い環境となるように提案していきたい。

国土強靱化対策により、1級、2級といった大きな河川や支川については事前に環境を整えて頂き被害がなかったが、小さな普通河川で被害が発生したため、丁寧に整備をしておく必要があった。従来から地域住民はリスクを感じているため、市としてもしっかり対応し、関係機関と連携をしていきたい。

自主防災組織が70%以上組織され、防災士の養成等を行っている。流域治水と合わせ有事の際に備える体制づくりが大切と考えている。降水量・土砂災害について全部を受け止めることは出来なくても、出来るだけそれを低減させるための仕組みづくりを流域でハード・ソフト含めこれから議論させて頂きたい。

(関川村長)

村内で湯沢地区の土石流と高田地区の内水氾濫が発生している。原形復旧だけでは、毎回災害が発生しており国費の無駄遣いではないかと思う。重要な案件については、地域の立場に立って知恵を出して頂きたい。今後、災害復旧が進むが、ご協力頂きたい。

(飯豊山系砂防事務所長)

今回の出水時にどれだけ土砂が出たか、LP 測量によって調べているところ。どこからどれだけ土砂が出たかを分析し、関係機関と連携しながら、堰堤の新設、嵩上げ、流木対策など、適切な対策を進めていきたい。

(新潟地方気象台長)

今後も出来る限り精度の良い予報を出していきたいが、予報は不確実性を持った情報であるということを把握しながら利用してもらいたい。関係を密にしながら情報を提供していきたい。

(村上地域整備部長)

現在、発生メカニズムを県庁と連携し分析・検討し、今後の復旧につなげていくよう進めている。協議会の中で情報を得ながら、色々な制度を参照しながら有効な災害復旧に向けて頑張っていきたい。

(新発田地域整備部長)

河川そのものの越水氾濫、内水対策についても地元首長と連携し、アイデアを出していきたい。引き続き伐木と河川掘削を進めていきたい。

(荒川沿岸土地改良区 理事長)

荒川頭首工の速やかな流木撤去に感謝したい。取水についても、2～3日で通水することができた。今後の対応についてもご協力を頂きたい。

(事務局)

頂いた意見を踏まえ、荒川流域内の各機関がより一層連携し、具体的な対策について、今後、議論・検討を進めていくことで、引き続きよろしく申し上げます。

# 出席者名簿

敬称略

機 関	役 職	氏 名	WE B 出席	備 考
北陸農政局	地方参事官	親泊 安次	○	
関東森林管理局 下越森林管理署 村上支署	支署長	金子 里志	○	
北陸地方整備局 飯豊山系砂防事務所	所長	山路 広明		
新潟地方気象台	台長	西尾 利一		
森林研究・整備機構 森林整備センター 新潟水源林整備事務所	所長	富崎 政彦 (欠席)		
新潟県 村上地域振興局 地域整備部	部長	大花 博重		
新潟県 村上地域振興局 農林振興部	部長	小島 勇治 (欠席)	○	代理：副部長 石田 和徳
新潟県 新発田地域振興局 地域整備部	部長	山郷 和久		
村 上 市	市長	高橋 邦芳		
胎 内 市	市長	井畑 明彦		
関 川 村	村長	加藤 弘		
荒川水力電気(株) 関川事業所	所長	阿部 和聖 (欠席)		
赤芝水力発電(株) 赤芝発電所	代表取締役	久保 智 (欠席)	○	代理：赤芝発電所所長 伊藤 義明
東北電力(株) 新潟発電技術センター	所長	加藤 光宏	○	
荒川沿岸土地改良区	理事長	小川 巖		
北陸地方整備局 羽越河川国道事務所	所長	澤山 雅則		

事務局等 北陸地方整備局 羽越河川国道事務所 調査課

北陸地方整備局 河川部

新潟県 土木部 河川管理課